

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
配当金受領株主確定日	毎年3月31日
公告掲載方法	日本経済新聞
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
電話お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店



第8期年次報告書
2006.4.1～2007.3.31

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かさせていただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、下記の方法にてアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 8934

いいかぶ 検索 Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信 kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本年次報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2007年8月末日まで)です。 **ご回答いただいた方の中から抽選で贈呈(図書カード500円)を差し上げさせていただきます**

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900 MAIL: info@e-kabunushi.com



サンフロンティア不動産株式会社

〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目2番2号(東宝日比谷ビル13F)

Tel.03-5521-1551 (IR室)

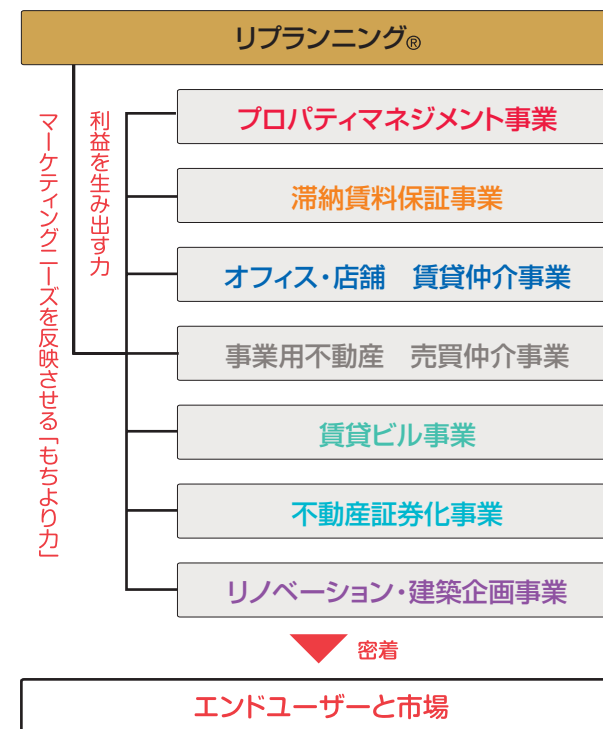




仕事を通して知識・技能・人格を溢れる熱意で向上させ、
 不動産ストックの活用と流通に専念することにより、
 再生産不可能な資源の無駄遣いを抑え、
 持続的な地球上の人類や動植物の繁栄に寄与する。

当社の社是は「利他」です。

リブランニング事業を中核とした8つの事業の連携で、
 お客様の満足にお応えする
 環境共生型の総合不動産業を展開しています。



◆リブランニング事業

老朽化し低稼働の中古事業用ビルを買い取り、再び高収益ビルとして甦らせるという当社グループ独自のビジネスモデルに基づいた事業用ビル再生の取り組みです。不動産資産の高付加価値化と既存資産を有効活用する環境共生を実現する手法として大きな支持を集めています。

◆プロパティマネジメント事業

ビルオーナー様の経営パートナーとして、当社が建物管理から入居者管理までのニーズ対応型のビル資産管理を行う受託事業です。

◆滞納賃料保証事業

SFビルサポート株式会社(サンフロンティア不動産100%子会社)が保証人となることによりビルオーナー様の賃料滞納に対する不安、テナント様の入居審査に対する不安などを解消し、安心してスムーズな賃貸借契約を促進します。

◆オフィス・店舗 賃貸仲介事業

都市部の事業用不動産に特化しエリアを限定した地域密着により、ビルオーナー様とご入居を希望されるお客様双方のニーズをマッチングさせます。

◆事業用不動産 売買仲介事業

事業用収益ビル・収益一棟マンション等の売却情報に対し、迅速に購入希望者を紹介するコンサルティング型の事業です。

◆賃貸ビル事業

好立地で将来的にも価値の認められる高収益ビルの一部を自社保有し、機能的で高品質な賃貸オフィスをご提供する事業です。

◆不動産証券化事業

リブランニングにより高付加価値・高収益の資産に再生した物件に私募ファンドを企画組成することで、金融商品として一般投資家様に提供する事業です。

◆リノベーション・建築企画事業

お客様の声を反映させながら魅力的な高収益物件に再生させる事業用不動産・オフィス・マンション等のリニューアル企画並びに修繕・改修工事を行う事業です。



サンフロンティア不動産株式会社
代表取締役社長 堀口 智顕

□第8期の市場環境と当社の業績について

リプランニング事業を中心に
堅調な成長を持続しております。

平成19年3月期の業績は、景気動向と市況の好転に恵まれたこともあって引き続き堅調に推移しております。当期の決算内容については別記の通りですが、皆様に目標として掲げさせていただいた平成20年3月期売上高500億円、そして平成22年3月期売上高1,000億円を、若干ではありますが上回るペースで成長していることをご報告させていただきます。更には経常利益率15%以上という公約についても、第8期は同23.5%と大き

く伸長させていただいております。これもひとえに当社を応援してくださっております株主様はじめ、数多くのステークホルダーの皆様のお陰と心より深く感謝申し上げます。

さて、昨今の不動産市場におきましては、不動産価格の上昇基調が顕著になっております。当社においても、取り扱い物件数は順調に増加するとともに、賃料の上昇などが当期の業績に大きく反映しております。オフィスやテナント等の需要の高まりとともに、基幹事業であるリプランニング事業が着実な実績を生み出した成果と受け止めております。

リプランニング事業のもう一つの追い風は、昨年来続いている不動産信託受託審査の厳格化に伴う受託解除の動きです。建物の用途や構造における、いわゆるグレーな部分を持つ物件が市場に放出される傾向がますます顕著になってきているとともに、投資適格物件の枯渇感から市場全体が二極化の様相を呈しております。当社では、リプランニングの手法を活用することで、このような不適格物件に適格性を持たせる「モノ作り」を社会的使命として、取り組んでまいりました。その実績をご評価いただいていた中での成長であったと感じております。社会全体的に不動産の「質」に対する関心が高まっているということは、器としての建物だけでなく、「価値を生み出す場」としての不動産が問われているのです。これこそまさに、リプランニング事業の目指すところであり、今後とも当社の活躍の場はますます広がっていくと確信しています。

今年度(19年度)もまた、こうした市場環境が続くものと予想しておりますが、慢心することなく自分たちの実力を高めてまいります。引き続き、ご支援・ご指導のほど、よろしく申し上げます。

□第8期の事業展開と今後に向けた課題

さらに大きな不動産の付加価値を
追求してまいります。

私なりに第8期を振り返ってみますと、当社独自のビジネスモデルであるリプランニング事業に対する市場の認知が着実に進んできており、改めて不動産市場規模の大きさを実感しております。

ご存じの通り、地球温暖化、自然破壊、資源枯渇など地球規模の環境問題が深刻化しています。従来のスクラップ・アンド・ビルド型の開発ではなく、再生型の不動産ビジネスを志向することにより、不動産活用の立場から循環型社会に向けた解決策の提案と、社会の進歩・発展へ貢献していきたいという強い思いを體現したのが、当社の売上8割強を占めているリプランニング事業なのです。

リプランニング事業とは、簡単に言えば築後20年以上経過したような低稼働の老朽化ビル資産を買い取り、解体することなくコンバージョンして、高稼働ビルとして再生する事業です。地価の値上がり益を追求していくような従来型の不動産投資ではなく、また、単なるビルの改装でもありません。不動産活用のための企画力やリーシング力など不動産会社らしいアプローチを通じて、不動産そのものが生み出す価値を最大化させるように再生するのです。当社の社是である「利他」の心が、各事業のシナジー効果を生み出し、創造性溢れるイノベーションへと繋がります。これが基となって、リプランニングの利点や有効性につい

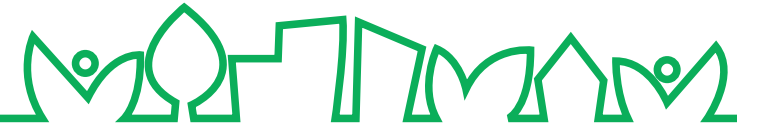
ての理解が広まっているようです。不動産という「モノ作り」に対する志や想いの実現に共感いただけるなど、当社の独自性がますます発揮しやすい環境が整ってきたことは、大変力強い材料であると認識しております。

ところで昨年度、当社内に商業施設開発室を新設し、他社ファンドやアライアンス先等とともに、商業ビルのプランニング段階から関わっていくという新事業を立ち上げました。商業ビルのリニューアルにおいても、リプランニングのノウハウを活用したいというお客様のご要望を受けて発足したものです。

取り扱い物件の中には、耐震性や老朽化などから、建て替えの必要がある建物もあります。新築を含めた商業ビル案件は今後、多数発生することが想像されます。いわば、リプランニングの派生事業ともいえるものですが、こうした顧客ニーズを汲みとった需要は近い将来、事業の柱の一つとして成長していくものと期待しております。

PM(プロパティマネジメント)事業にも、新しい動きが生じています。このところ、当社のPMに対する引き合いや受注が、物件数・規模両面で増えてきております。これもリプランニングから賃貸仲介を強みとしたPMまでの一貫したサービスを提供できることが評価されたものと大変心強く感じております。今後も、当社ならではのメリットを実現できるPMを追求してまいります。





□経営に対する考え方と優先課題

リプランニングの原動力は人財力
引き続き人財育成を最重要の課題に

リプランニングを始め当社の事業の原動力は、他ならぬ「社員の力」だと考えております。新たな価値を生み出すパワーは社員が実績と経験を通じて積み上げていく中にあるのです。たとえば、リプランニング事業においては、ビル内のテナントがオフィスに入居したまま工事を進めることが多々生じます。この時、入居者の皆様の理解をどのように得るか、万一クレーム等が発生した時にどのように対応するのか。そういった小さな積み重ねがリプランニング事業への信頼の本質であり、重要なノウハウ基盤になっているのです。

本年1月には、USCビル（東京都江東区、延床面積約1万9,043m²）のリプランニングを成功させました。物件取得時に年間1億2,700万円に過ぎなかったNOI（実効収益）は、リプランニングにより約5倍の6億2600万円に拡大できました。この工事は、入居者が営業を続けたまま実施されました。当社のノウハウを総結集した成果であると受け止めております。

企業の成長は、社員一人ひとりの仕事に取り組む姿勢や努力、人としての成長とその歩みを同じくするでしょう。基本理念である「利他の精神」や、社員の自律的な志を体現する中で発揮される「もちより力」が、リプランニングだけではなく、当社の強みそのものなのです。引き続き、私の最大の課題は「人財育成」であり、それを通じて、独自の企業文化を創り上げていくことです。決算によって表れる数字は結果です。皆様方におかれましては、それを生み出す原動力となっている、当社の人財の質にもぜひ着目していただきたく存じます。

□株主・投資家の皆様へ

東証一部上場を通過点として
さらなる飛躍のための努力を続けてまいります。

当社は、本年2月26日をもちまして東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。これもひとえに株主の皆様はじめ関係各位の一方ならぬご支援の賜物と心より感謝申し上げます。平成16年11月にJASDAQ市場へ上場して以降、株主の皆様をはじめ各方面から寄せられる期待と励ましのお言葉を真摯に、かつ謙虚に受け止めながら、本業を通しての社会貢献を追求してまいりました。東証一部上場もまた、大きな目標を達成するための一つの「通過点」と受け止めております。同時に、一部上場企業としての社会的責任を強く自覚してもおります。

コンプライアンス強化や積極的なディスクロージャーをさらに進めることはもとより、社員一同、正しい志を持った企業としての自覚をさらに高め、事業を推進してまいります。また、「利他」が育む企業風土、そこから生まれるシナジー効果「もちより力」と「イノベーション」で大胆かつ積極的に経営しつつ、「人財育成」という目の前の課題に一步一步着実に取り組み、事業を発展させてまいります。

株主の皆様とは長期にわたるお付き合いを積み重ね、深い絆を創りあげたいと考えています。そうした意味で、株主の皆様には、資産株として当社の株式を引き続き保有していただければと願っております。

皆様方におかれましては、今後とも当事業の発展を温かく見守りいただき、ご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。

□リプランニングの実績

過去最大のリプランニングによるコンバージョンに成功。
USCビル（東京都江東区東陽四丁目）

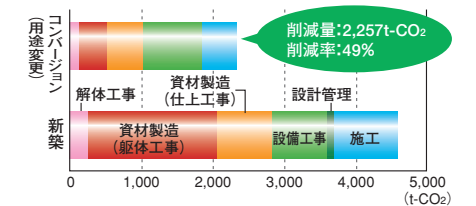
当社では、地下1階・地上8階の旧USCビル本館とテニスコートを伴う別館、そして8階建の鶴川ビル（延床面積総計約1万7,421.64m²）を対象にリプランニングに取り組み、屋上庭園（ビオトープ）や緑豊かな公開緑地を持つ最新のオフィスビルとして再生させました。

当社にとっては過去例のない規模のリプランニングであり、本年1月に当社100%子会社のSFインベストメンツ（株）と共同で、再生物件の不動産信託受益権の譲渡を完了させ、本プロジェクトを完遂させることができました。このリプランニング・プロジェクトのコンセプトは「自然とオフィスが共存するコンバージョン」。最新技術と当社のノウハウを結集してエネルギー効率、工事に伴う排出CO₂削減・水と緑など自然環境保全をテーマに取り組んだ物件です。スクラップ・アンド・ビルドをした場合と比べるとCO₂換算で約49%削減、新規に投入した資材等は約65%削減、最終処分量は約88%削減など、環境共生を目指す当社の「想い」を実現した、素晴らしい実績を上げることができました。

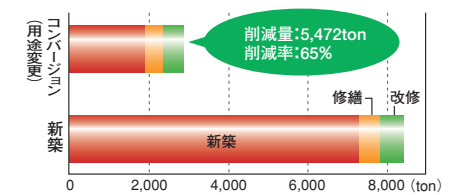
● 屋上緑化で環境保全に貢献



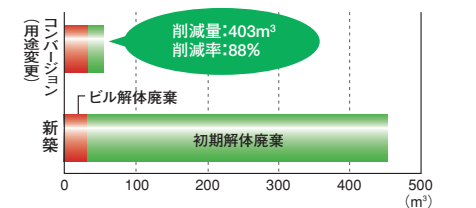
● 工事ともなうCO₂排出量の比較



● LCバージン資源投入量の比較



● LC最終処分量の比較



戸田建設(株)「環境評価レポート」より(日本建築学会「建物のLCA指針」に基づく)



□概況

世界的な原油価格の高騰による原材料費の上昇や金利の先高観等の不安材料があったものの、第8期（平成18年4月～平成19年3月）は、引き続き三大都市圏の商業地を中心に不動産価格が上昇し、また、オフィスビル賃貸市場でも需給の逼迫感が強まり賃料水準の上昇も一層顕著になるという推移を見せました。リプランニング事業の市場の認知が進むと同時に、その良さの認知が進んだこともあって、引き続き、取扱物件の増加並びに大型化が順調に進んでおります。こうした結果、当連結会計年度の業績は、売上高35,254百万円（前年同期比110.7%増）、営業利益8,708百万円（同131.8%増）、経常利益8,289百万円（同138.6%増）、当期純利益4,853百万円（同178.3%増）の実績をあげることができました。

□売上高

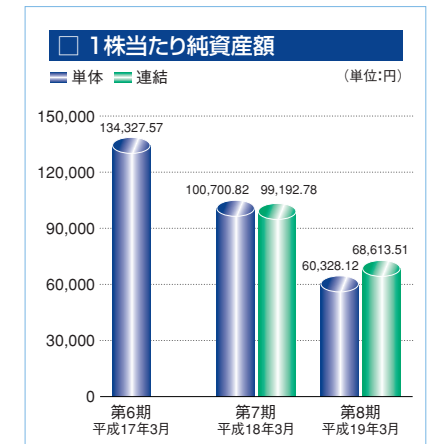
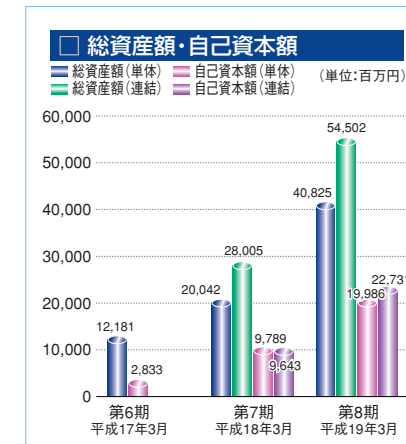
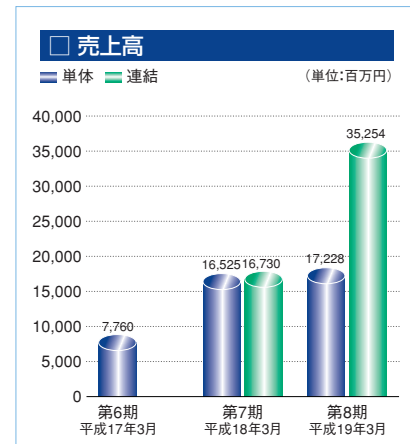
当期のグループ全体の売上高（連結）は35,254百万円を計上いたしました。これは平成18年3月期（第7期）の連結売上高16,730百万円の2倍強（前年同期比110.7%増）の伸びに当たります。連結売上高の内訳はリプランニング事業を含む主力の不動産再生事業の売上高は32,662百万円（同117.2%増）、売買仲介・賃貸仲介・プロパティマネジメント事業などの不動産サービス事業の売上高は1,647百万円（同1.3%減）、アセットマネジメント事業および配当金収入などのその他不動産事業の売上高は944百万円（前年同期は24百万円）となっております。その他不動産事業の大幅増加は、アセットマネジメント物件が当初想定以上の高水準の価額で売却ができたことなどを反映したものです。

□利益

当期の営業利益（連結）は8,708百万円（前年同期比131.8%増）、経常利益8,289百万円（同138.6%増）、当期純利益4,853百万円（同178.3%増）と、引き続き順調な業績を上げることができました。このうち営業利益の内訳は、不動産再生事業の8,510百万円（同108.9%増）、不動産サービス事業37百万円（同82.0%減）、その他不動産事業886百万円（前年同期は7百万円）となっております。総体としての利益の増加は、引き続きリプランニング事業を中心にした不動産再生事業の順調な伸びが大きく貢献したことによるものです。当社グループ初の大型プロジェクトである「USCビルプロジェクト」も計画どおり完了することができるなど、物件の大型化や最適用途創出による賃料上昇、不動産市場の活況等の効果が大きいと考えています。

□次期（第9期）の見通し

第9期（平成20年3月期）の不動産市場は引き続き活況であると考えていますが、金利上昇懸念や各金融機関による不動産信託受託審査の厳格化等の影響も一層顕在化すると考えています。当社グループでは、引き続き都市部の事業用不動産に特化した不動産再生事業を中核としながら、総合的な不動産サービス事業を強化してまいります。また、不動産再生事業に連動して不動産証券化事業を出口戦略等に併用しつつ進化発展することにより、株主価値・企業価値の極大化を追求してまいりたいと考えています。これらの結果として、通期の連結業績の見通しは、売上高55,000百万円（前年同期比56.0%増）、営業利益10,690百万円（同22.8%増）、経常利益9,900百万円（同19.4%増）、当期純利益5,200百万円（同7.1%増）を見込んでおります。



※平成17年5月20日付で株式1株につき4株、平成18年4月1日付で株式1株につき3株の株式分割を行っております。

連結財務諸表



□連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
●資産の部		
流動資産	51,067,757	24,751,231
現金及び預金	11,170,280	6,678,054
売掛金	242,424	208,660
たな卸資産	37,840,343	16,100,951
その他	1,815,716	1,765,639
貸倒引当金	△1,006	△2,074
固定資産	3,434,929	3,253,799
有形固定資産	2,277,222	2,295,375
建物	1,052,621	1,070,737
土地	1,186,585	1,186,585
その他	38,016	38,053
無形固定資産	64,413	528,983
連結調整勘定	—	473,078
その他	64,413	55,905
投資その他の資産	1,093,293	429,439
貸倒引当金	△1,307	△1,313
資産合計	54,502,686	28,005,030

流動資産
第9期以降販売予定物件の仕入が順調に進んだことによる、たな卸資産の増加及び期末に向けての物件売却資金入金による現金及び預金の増加によって、51,067百万円(前年同期比106.3%増)となりました。

流動負債・固定負債
リブランニング物件取得に伴う銀行借入れ実施による長期・短期借入金の増加等によって、負債合計は31,767百万円(前年同期比73.0%増)となりました。

資本金
平成18年7月実施の公募増資等によって、資本金は7,227百万円(前年同期比136.9%増)となりました。

(単位:千円)

科目	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
●負債の部		
流動負債	20,700,493	13,361,860
買掛金	775,838	138,584
短期借入金	7,919,000	9,723,000
一年以内償還予定社債	108,000	328,000
一年以内返済予定長期借入金	8,363,200	303,300
未払法人税等	2,434,210	1,565,157
繰延税金負債	—	520,791
賞与引当金	72,203	56,460
役員賞与引当金	46,000	—
工事保証引当金	61,100	73,200
事業所閉鎖損失引当金	10,575	—
その他	910,365	653,366
固定負債	11,067,410	4,999,842
社債	486,000	1,254,000
長期借入金	8,209,260	3,142,460
役員退職慰労引当金	78,451	74,584
その他	2,293,699	528,797
負債合計	31,767,904	18,361,703
●資本の部		
資本金	—	3,050,911
資本剰余金	—	3,112,248
利益剰余金	—	3,478,512
その他有価証券評価差額金	—	1,654
資本合計	—	9,643,327
負債資本合計	—	28,005,030
●純資産の部		
株主資本	22,727,149	—
資本金	7,227,668	—
資本剰余金	7,289,003	—
利益剰余金	8,210,477	—
評価・換算差額等	4,714	—
新株予約権	2,918	—
純資産合計	22,734,782	—
負債純資産合計	54,502,686	—

□連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	35,254,545	16,730,890
売上原価	23,155,684	10,766,197
売上総利益	12,098,860	5,964,692
販売費及び一般管理費	3,390,702	2,207,999
営業利益	8,708,157	3,756,693
営業外収益	14,387	3,294
営業外費用	432,878	285,777
経常利益	8,289,666	3,474,210
特別利益	9,614	183
特別損失	11,773	26,022
税金等調整前当期純利益	8,287,507	3,448,371
法人税、住民税及び事業税	4,056,679	1,874,693
法人税等調整額	△623,103	△170,423
当期純利益	4,853,931	1,744,100

□キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△13,299,184	△6,905,260
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,085,497	△557,366
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,548,639	12,004,037
現金及び現金同等物の増減額	4,163,957	4,541,411
現金及び現金同等物の期首残高	6,005,324	1,463,913
現金及び現金同等物の期末残高	10,169,282	6,005,324

売上高
当社中核事業であるリブランニング事業において、当社100%子会社SFインベストメント(株)で取り組んでおりました「USCビル」売却(売却価額115億円)が大きく寄与し、35,254百万円(前年同期比110.7%増)となりました。

経常利益
最適用途創出による賃料水準の上昇及び市場全般的な不動産価格の高騰を背景に、リブランニング販売物件価額が軒並み上昇したことによって、経常利益は8,289百万円(前年同期比138.6%増)となりました。

□連結株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計			
平成18年3月31日 残高	3,050,911	3,112,248	3,478,512	9,641,673	1,654	—	9,643,327
当期中の変動額							
新株の発行	4,176,756	4,176,754		8,353,511			8,353,511
剰余金の配当(注)			△96,966	△96,966			△96,966
利益処分による役員賞与(注)			△25,000	△25,000			△25,000
当期純利益			4,853,931	4,853,931			4,853,931
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					3,059	2,918	5,978
当期中の変動額合計	4,176,756	4,176,754	4,731,965	13,085,476	3,059	2,918	13,091,455
平成19年3月31日 残高	7,227,668	7,289,003	8,210,477	22,727,149	4,714	2,918	22,734,782

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。



□貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 (平成19年3月31日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
●資産の部		
流動資産	37,251,276	12,168,625
固定資産	3,574,606	7,874,016
資産合計	40,825,883	20,042,641
●負債の部		
流動負債	13,545,301	7,604,697
固定負債	7,290,772	2,648,388
負債合計	20,836,074	10,253,085
●資本の部		
資本金	—	3,050,911
資本剰余金	—	3,112,248
利益剰余金	—	3,624,740
その他有価証券評価差額金	—	1,654
資本合計	—	9,789,555
負債資本合計	—	20,042,641
●純資産の部		
株主資本	19,982,175	—
評価・換算差額等	4,714	—
新株予約権	2,918	—
純資産合計	19,989,808	—
負債純資産合計	40,825,883	—

□損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当期 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	17,228,323	16,525,269
売上原価	11,067,310	10,658,184
売上総利益	6,161,012	5,867,084
販売費及び一般管理費	2,720,873	2,110,978
営業利益	3,440,139	3,756,105
営業外収益	73,840	37,573
営業外費用	227,614	206,281
経常利益	3,286,366	3,587,397
特別利益	9,616	183
特別損失	365,169	26,022
税引前当期純利益	2,930,811	3,561,558
法人税、住民税及び事業税	898,717	1,805,000
法人税等調整額	69,365	△133,459
当期純利益	1,962,728	1,890,018
前期繰越利益	—	1,565,165
当期末処分利益	—	3,455,183

□東京証券取引市場第一部上場 これを通過点に、さらなる飛躍を期してまいります。

当社は、平成19年2月26日をもって東京証券取引所市場第一部に上場させていただきました。

これもひとえに株主の皆様はじめ関係各位の並々なご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

東証一部上場を新たな通過点として、株主の皆様をはじめ各方面から寄せられる期待と励ましのお言葉を真摯にそして謙虚に受け止め、引き続き、本業を通してのお役立ちを追求してまいりたいと従業員一同決意を新たにしております。



□投資家向けIR活動の積極展開 さらに充実したディスクロージャーに取り組んでまいります。

当社は、株主・投資家の皆様にタイムリーに有益な情報を提供すべく情報開示(経営・財務情報のディスクロージャー)に注力してまいりました。個人投資家を含む多様な投資家の皆様に公平な情報開示を実現すべく、四半期ごとの決算発表のほか、個人投資家向け会社説明会・アナリスト説明会の開催、決算説明会オンデマンド放送や各種リリースなど、ホームページを通じたタイムリーなIR情報提供の充実に取り組んでおります。当社では東証一部上場を機に、さらに充実したIR活動を展開していきたいと考えております。皆様のさらなるご理解・ご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

- 2007.03.16 個人投資家向け会社説明会(大阪)
- 2007.02.27 個人投資家向け会社説明会(東京)
- 2007.01.13 個人投資家向け会社説明会(東京)
- 2006.09.08 個人投資家向け会社説明会(大阪)
- 2006.07.24 個人投資家向け会社説明会(名古屋)
- 2006.05.20 個人投資家向け会社説明会(東京)



□株主資本等変動計算書(要旨)

当期(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本 合計			
平成18年3月31日 残高	3,050,911	3,112,248	3,624,740	9,787,901	1,654	—	9,789,555
当期中の変動額							
新株の発行	4,176,756	4,176,754		8,353,511			8,353,511
剰余金の配当(注)			△96,966	△96,966			△96,966
利益処分による役員賞与(注)			△25,000	△25,000			△25,000
当期純利益			1,962,728	1,962,728			1,962,728
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)					3,059	2,918	5,978
当期中の変動額合計	4,176,756	4,176,754	1,840,762	10,194,274	3,059	2,918	10,200,252
平成19年3月31日 残高	7,227,668	7,289,003	5,465,503	19,982,175	4,714	2,918	19,989,808

(注)平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。



会社概要 / 株式の状況

平成19年3月31日現在

社名 サンフロンティア不動産株式会社
Sun Frontier Fudousan Co.,Ltd.
本社事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-2-2
東宝日比谷ビル13F
TEL.03-5521-1301(代) FAX.03-5521-1421

■流通事業部
TEL.03-5521-1320 FAX.03-5521-1431

■リプランニング事業部
TEL.03-5521-1330 FAX.03-5521-1441

■投資企画部
TEL.03-5521-1510 FAX.03-5521-1441

■プロパティマネジメント事業部
TEL.03-5521-1340 FAX.03-5521-1451

資本金 7,227百万円
社員数 125名(連結)

役員
代表取締役 堀口 智顕
常務取締役 長谷川 進一
常務取締役 望月 雅博
取締役 斎藤 清一
取締役 宮内 誠
常勤監査役 村上 義臣
常勤監査役 吹上 和明
監査役 秋田 瑞枝

子会社
SFインベストメンツ株式会社
サンフロンティア不動産投資顧問株式会社
SFビルサポート株式会社
有限会社SFキャピタル

営業所 ■銀座店 (リーシングマネジメント事業部)
(リーシングマネジメント事業部)
〒104-8139 東京都中央区銀座3-9-11
紙パルプ会館6F
TEL.03-3545-3710 FAX.03-3545-0073

■新宿店
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-12-4
アコード新宿ビル9F
TEL.03-5366-7211 FAX.03-5366-7212

■神田店
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-1
山城ビル1F
TEL.03-3295-3260 FAX.03-3295-3261

■横浜店
〒220-0005 神奈川県横浜市西区北幸2-4-10
大明ビル7F
TEL.045-290-0741 FAX.045-290-0970

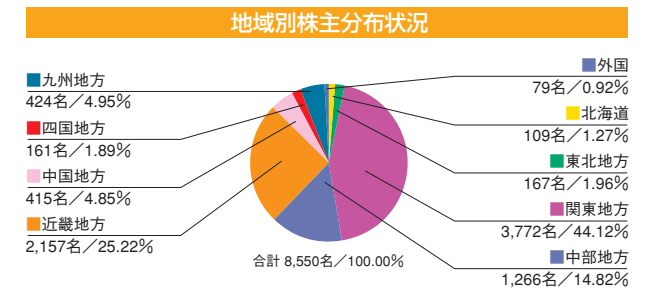
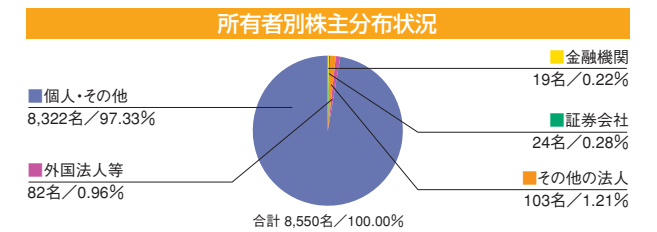
※営業所の統廃合・移転により平成19年5月31日時点を示しております。

ホームページのご案内 (IR情報)

<http://www.sunfrt.co.jp>

当社ホームページでは、投資家の皆様に財務諸表や最新トピック等、IRに関する情報を提供しております。ぜひお役立てください。

■発行可能株式総数..... 912,000株
■発行済株式の総数..... 331,303株
■株主数..... 8,550名



■大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)*
堀口 智顕	176,329	53.22
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	11,193	3.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	8,661	2.61
ジェービーエムシービー オムニバス ユーエス ペンション トリーティー ジャステック 380052	8,434	2.54
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	7,591	2.29
小林 剛	5,543	1.67
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	5,532	1.66
長谷川 進一	5,250	1.58
ピーエヌピー パリバ セキュリティーズ サービス ロンドン/ジャステック/ユーケー レジデンツ	4,850	1.46
堀口 恵子	3,990	1.20

※小数点第3位切捨てて表示してあります。